

参考資料
分類名〔野菜〕

参 10	極早生品種を用いたエダマメ二期作を可能とする播種日
------	---------------------------

宮城県農業・園芸総合研究所

要約

エダマメの極早生品種を用いて4月中旬と、7月下旬から8月上旬に播種することで二期作が可能である。これによりそれぞれ7月中旬から下旬と、9月下旬から10月中旬に収穫を行うことができ、8月の供給が多いエダマメの出荷にかかる調整作業の集中を回避することが期待される。

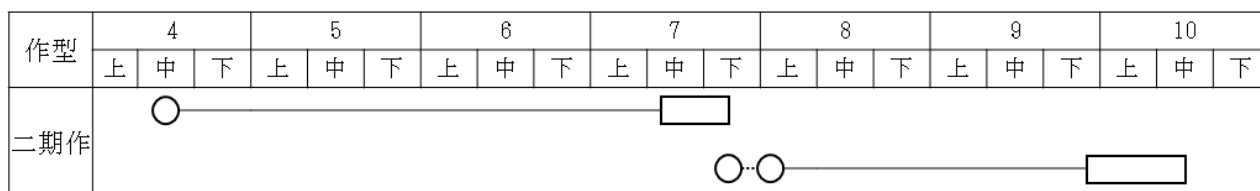
普及対象：エダマメ生産者
普及想定地域：県内全域

1 取り上げた理由

宮城県におけるエダマメの作型は露地栽培が殆どで、8月の出荷が多くなっているが、7月から10月にかけての継続的な出荷が望まれている。そこで露地栽培におけるエダマメの7月と10月の年2回の供給が可能な二期作の播種日について明らかにしたので、参考資料とする。

2 普及技術

- (1) 露地4月播き栽培において「初だるま」は4月14日前後に播種することで7月中旬から下旬の収穫となり、収量については約600kg/10a得ることができる。また、播種日が4月下旬になると収穫日の遅れや収量の低下が見られる場合があるため、播種適期は4月14日前後であると考えられる（表1）。
- (2) 露地4月播き栽培において「神風香」は4月14日前後に播種すると7月中旬から下旬の収穫となり、収量については約450～580kg/10aとなる（表2）。
- (3) 露地夏播き栽培において「神風香」は7月中旬～8月上旬に播種することで約350kg/10aの収量を得ることができるが、播種日が8月中旬になると収量は約150～200kg/10aとなる（表3）。
- (4) 極早生品種「神風香」や「初だるま」を用いて露地4月播き栽培と露地夏播き栽培を組み合わせ、適期に播種を行うことで合計約600～800kg/10aの収量を得ることができる。作型表を図1に示す。



○ = 播種 □ = 収穫期間

図1. 極早生品種を用いて二期作を行う作型

3 利活用の留意点

- (1) 本試験は令和3年から令和5年にかけていずれも宮城県農業・園芸総合研究所内（宮城県名取市）の露地ほ場で行った試験結果である。
- (2) 品種は雪印種苗（株）の「神風香」とカネコ種苗（株）の「初だるま」を使用した。サカタのタネ（株）の早生品種「おつな姫」やカネコ種苗（株）の中早生品種「湯あがり娘」も検討したが、年によっては露地4月播き栽培で収穫時期が8月中旬になる場合があること、露地夏播き栽培では莢の肥大が間に合わないことがあるため、本作型に用いる品種からは除外した。
- (3) 耕種概要は次の通り。栽植密度は畝間75cm、株間20cmで10a当たり6,650株とした。播種は直播で1穴2粒とし、出芽後に生育の優れる方を残して1穴1株に間引きした。施肥はN:P:K=7:7:7kg/10aの全量基肥を各播種の前に行った。
- (4) 収穫時期の判断は、開花日から35日前後を目安として、莢の厚さが8.0~10.0mmに到達した頃とした。
- (5) 本試験では4月上旬に播種した場合も収穫まで至ったが、年によっては凍霜害に遭遇する恐れもあるため、4月の播種は中旬以降が望ましい。

（問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所 野菜部 電話 022-383-8124）

4 背景となった主要な試験研究の概要

- (1) 試験研究課題名及び研究期間
主要露地野菜生産に関する気候変動適応技術開発事業（令和3年～）
- (2) 参考データ

表1. 極早生品種「初だるま」を用いた露地4月播き栽培における播種日と収量

品種	試験年度	播種日	収穫日	栽培日数	可販収量	
					平均重/株 (g)	換算収量 (kg/10a)
初だるま	令和4年	4月12日	7月26日	105	109.5	583
		4月19日	8月5日	108	120.7	642
		4月26日	8月17日	113	118.6	631
	令和5年	4月14日	7月18日	95	127.1	676
		4月21日	7月28日	98	96.4	513
		4月28日	8月4日	98	88.2	469

注1) 令和4年度試験は10株×2反復で調査。令和5年度試験は4月14日播種区のみ10株×2反復、他の区は10株×4反復で調査。

注2) 栽培日数：播種から収穫までの日数

注3) 平均重/株：病気や虫害、傷のある莢を除いた、1株あたりの可販収量

注4) 換算収量：平均重/株(g)/1,000×栽植密度(6,650株/10a)×0.8（枕地を考慮）により算出

表2. 極早生品種「神風香」を用いた露地4月播き栽培における播種日と収量

品種	試験年度	播種日	収穫日	栽培日数	可販収量	
					平均重/株 (g)	換算収量 (kg/10a)
神風香	令和3年	4月6日	7月13日	98	91.4	486
		4月14日	7月13日	90	86.2	459
		4月27日	7月21日	85	95.9	510
	令和4年	4月12日	7月26日	105	96.0	511
		4月19日	8月5日	108	93.5	497
		4月26日	8月5日	101	92.1	490
	令和5年	4月14日	7月18日	95	110.4	587
		4月21日	7月24日	94	98.3	523
		4月28日	8月4日	98	115.6	615

注1) 令和3年度、令和4年度試験は10株×2反復で調査。令和5年度試験は4月14日播種区のみ10株×2反復、他の区は10株×4反復で調査。

注2) 栽培日数：播種から収穫までの日数

注3) 平均重/株：病気や虫害、傷のある莢を除いた、1株あたりの可販収量

注4) 換算収量：平均重/株(g)/1,000×栽植密度(6,650株/10a)×0.8（枕地を考慮）により

表3. 極早生品種「神風香」と「初だるま」を用いた露地夏播き栽培における播種日と収量

品種	試験年度	播種日	収穫日	栽培日数	可販収量	
					平均重/株 (g)	換算収量 (kg/10a)
神風香	令和3年	7月13日	9月18日	67	57	303
		7月21日	9月28日	69	64.5	343
		8月3日	10月15日	73	67.2	358
		8月13日	10月25日	73	40.2	214
	令和5年	8月16日	10月20日	65	34.5	183
初だるま	令和5年	8月16日	10月20日	65	28.9	154

注1) 令和3年度試験は10株×2反復で調査。令和5年度試験は「神風香」については10株×4反復、「初だるま」については10株×3反復で調査。

注2) 栽培日数：播種から収穫までの日数

注3) 平均重/株：病気や虫害、傷のある莢を除いた、1株あたりの可販収量

注4) 換算収量：平均重/株(g)/1,000×栽植密度6,650(株/10a)×0.8（枕地を考慮）により算出

(3) 発表論文等

イ 関連する普及に移す技術 なし

ロ その他

令和5年度東北農業試験研究推進会議 研究成果情報

(4) 共同研究機関 なし